

平成29年度第1回熊本県専門研修プログラムに 関する協議会に参加して

公益社団法人 熊本県精神科協会 副会長 宮 本 憲司朗

平成29年7月25日、熊本県庁において表記の会議が行われ、熊精協代表として、出席して参りました。その報告と精神科専門医について述べます。

もともと専門医は各学会が独自に制度を構築し、基準が不統一で多種多様な専門医が乱立し、国民にとってわかりにくいものとなっていました。そこで、医師の質の一層の向上及び医師の偏在是正を図ることを目的として、平成25年4月に「専門医のあり方に関する検討会」が開催されました。平成26年5月に中立的な第三者機関として「社団法人日本専門医機構」（以後機構とする）が設立され、専門医の認定と養成を行うため、プログラムの評価・認定を統一的に行うことにしました。

専門医の認定は経験症例数などの活動実績（カリキュラム制）を要件とし、機構に認定された養成プログラムに基づき大学病院等の基幹病院と地域の協力病院等が病院群を構成して実施するとし平成29年度を目安に開始する予定でした。

ところが、平成28年2月頃から地域医療関係団体（日本医師会、市町村長会、県知事会等）より機構案では大都市部への医師の偏在が促進され、このまま制度を認めれば、地域医療の崩壊につながり、あまりにも拙速であるとの強い懸念が示された。5月には機構理事長が交代することになり、制度開始を、平成30年度を目処へと遅らせることになり、現在では精神科でも旧制度と新制度の2本立てとなり、混乱が続いている。しかし、そのうちに、新制度一本になると思われる。

12月になり、機構は「専門医制度新整備指針」を決定した。その要点は、「あらたに医学部を卒業し、診療に携わる医師の多くは、いずれかの専門領域を選択しその基本領域学会の専門研修を受

けている実態があるが、専門医はすべての医師が取得しなければならないものではなく、医師として自律的な取組み（プロフェッショナルオートノミー）として位置付けられるものである。」とある。柔軟な対応にも見えるが、新規医学部卒業者は90%以上が専門医取得を希望しており、専門医を取らざるを得ない雰囲気や状況があると思える。そうであれば地域医療で活躍しようと考えている医師が専門医を取得しやすいプログラムを制定して欲しい。それと専門医の広告が可能となれば、医師を選ぶ際の目安にされるが、それが真に医療の質を担保しているかは疑問である。ましてや診療報酬と結びつけることは、極めて慎重にしなければならぬ。学会はプロフェッショナルオートノミーであることを強調して欲しいと願う。

次に、「(地域医療に資することが明らかな) 地域医療従事者や妊娠、出産などで研修プログラムが中断する女性医師にはカリキュラム制を設置する。」に関しては、「相当の合理的理由がある医師等は研修カリキュラム制による専門研修を行うなど、柔軟な対応を行う。」とある。専門医制度新整備指針によると、「特定の理由（海外への留学や勤務、妊娠・出産・育児、病気療養、介護、管理職、災害被災など）」のために専門研修が困難な場合は、専門研修を中断でき、6ヶ月までの中断では、必要な症例の埋め合わせで、6ヶ月以上の中断では、研修実績の引き続き有効を認めている。これ以外の相当の合理的理由とは具体的にはどのような理由があるのか、今後の運用の中で決まっていくだろうが、専攻医の努力が報われないことが起こらないように注視していかなくてはならない。

また、「研修の中心は大学病院のみではなく、地域の中核病院などであること。」と明記された。「専門研修基幹施設は、単科の医療機関であっても研修施設群として各基本領域学会の定める必要な水準を満たす場合は基幹施設として認定することができる」とあり、精神科病院が基準を満たし、機構に認められれば基幹施設になることは可能である。

以上のような経過を経て、新たな専門医の仕組みにおいて、県内で医師が偏在することなく専門医の質を高める体制を構築できるよう、機構による専門研修プログラムの認定に必要な検証、調整に係る協議等を行うため、「熊本県専門研修プログラムに関する協議会」が設置された。これが表題の協議会である。委員は熊本大学医学部附属病院、医師会、病院団体、地域医療関係機関だけでなく、熊本市長会、町村会、熊本県からなる。今後は基幹施設も参加する。研修プログラム承認後も研修プログラムの運用に関して、協議会は機構に意見を述べることになる。熊精協としては、精

神科専門医研修プログラムに関して協議会で意見を出していく。

精神科は19の基本領域の一つになっており、熊本大学医学部神経精神科が、精神科専門研修プログラムの基幹施設として、県内外で14の連携施設から成るプログラムを作成している。精神科を専攻する医師の増加率は1位の麻酔医科医について、放射線科と並んで2位であり、精神科専攻医が増加傾向にある。また女性医師の増加に伴い、精神科でも女性医師が増えてくる。多くの精神科専攻医が熊大のプログラムを希望してくるような、また、女性医師が安心して専門医を取得できるプログラムになっていって欲しい。今後はプログラムを終了した精神科専門医が熊精協会員病院や、地域医療の現場で活躍されることに成るのだから、県内外の多くの精神科専攻医が熊本のプログラムに参加してくるような、魅力のあるものにしていただきたいし、また熊精協としてもそのように協力していきたい。